

地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- 平場の干拓地が広がり、比較的若い担い手が多く、農地の集積も進んでいる地域
- 農産物の販売単価が下落する中、農業者の所得向上に苦慮

【支援内容・背景】

- 玉名市では、JA、農業委員会、土地改良区等で構成された「玉名市人・農地プラン」検討委員会において、年2回の協議の場を設け地域農業の中心経営体の位置付けを行っている。また、機械等の導入支援事業を行っている。
- 助成対象者は、イチゴの栽培において高設栽培や先進的技術を用い、また、社員を複数雇用し、合理的な農業経営を営んでいる農家であり、地域農業の中心経営体に位置付けられている。



助成対象者「(株)イチゴラス」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 昭和40年代 森川苺農園開設
- 平成24年 現代表の就農を契機に高単価・高品質のイチゴ 栽培に切り替え、国内小売店・製菓店への直販及び香港への輸出を開始
- 平成29年 本事業によりイチゴ栽培株数を増加（約27,000本→約31,000本）
- 平成30年 輸出事業計画(GFP)登録
- 平成31年 法人化
- 令和2年～ GFPグローバル産地づくり推進事業を活用し、東アジア・UAE・アメリカ等への輸出強化に取り組む(現在の取引国:香港、マカオ、シンガポール、タイ)

《事業活用の背景》

- 輸出に当たっては、安定的な出荷量の確保、輸出国の規制や環境、文化に併せた商品づくりが必要であり、それら生産活動と併せて、新たな取引国に対する調査・試験等の営業活動も重要
- 丸鋼管ハウス及び高設ベンチ等の高性能施設を導入し、生産活動を効率化することで、余剰労力を規模拡大・営業活動にあてることが可能

【事業実施時の状況】
〈H29年度〉

- 売上高 27百万円
- 輸出額 5百万円(1t)
- 雇用(常・非勤) 6名

《事業による整備内容》

- 丸鋼管ハウス 5連棟 1棟
事業費39,418千円 (国費 15,000千円)

【現在の経営状況】
〈R2年度〉

- 売上高 133百万円
[493%]
- 輸出額 12百万円(2.9t)
[240%]
- 雇用(常・非勤) 8名
[133%]

事業の効果

- 地域集落における安定的な雇用の場の創設【常勤6名、非常勤2名/年(約15百万円の賃金)】
- 地区内で先進的に輸出を実践したことにより地域内農家の輸出取組に寄与【地域内の輸出取組者2名増】